



令和2年度学校だより

甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう) 第7号

学校教育目標 「たくましい心と体を持ち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬

56名の頼もしい前期学級役員

	会長	副会長		議長		書記	
1-1	清水美遥	功刀楽琉	小田切湊実	佐野陽琉	千野陽太	三枝奏太	矢崎健太郎
1-2	西島海人	伊神流星	築野明日香	泉 乙香	仙洞田陽莉	秋山圭史	清水千遥
1-3	清水希遥	岩田秀真	白須優衣	井内菜歩	窪寺あげは	小澤杏菜	和田優花
2-1	福田美晴	深瀬 悠	鈴木愛琉	廣瀬 怜	清水日晴	田草川美雨	田中咲菜
2-2	佐野心菜	中澤凌太	深澤麻耶	原 天翔	田中咲絵	大間美月	名執華称
3-1	伊藤朱里	功刀稜琉	小野彩音	小林利圭	小川碧衣	橋本幸治	秋山太希
3-2	向山鈴音	井上尊稀	松七五三珠緒	佐藤李樹	望月彩桜	福田大翔	早川 凜
3-3	手塚義希	三藤龍恩	内藤夏乃	小林姫菜	新海美結	小池真莉香	丸茂楓香



全学年・全学級で前期の学級役員が決まり、10日(水)の認証式で各学年代表生徒に認証状を手渡しました。2か月の遅れを取り戻し学級のまとまりを、そして学年の絆を深めていくためにリーダーとして立ち上がった総勢56名を頼もしく思います。早速、学年生徒会を開き、学年組織や目標、活動方針などを話し合った学年もありましたし、生徒会本部の方も先日打ち合わせの時間をもっていましたので、子どもたちによる“自治的な活動”が

動き出そうとしていることがとても楽しみです。

認証式では『3つのC+ one more C』を大切に!』という話をしました。『3つのC』とは“Chance”、“Challenge”、“Change”の、いずれもCから始まる3つの単語を指します。学級役員の中には自ら立候補した者もいれば、仲間に推されて一念発起した者もいるようです。どちらにせよ、今回この貴重なチャンスを得たことを生かし、学級役員の子どもたちには様々なことへの挑戦を通して、学級や学年を変える、自分自身を変えることにつなげてほしいという思いを伝えました。

そして、もう一つ大切にしてほしいCとして挙げたのが、“Communication”のCです。私が言うまでもなく、学級として大切にすることの1番目にこの“Communication”を掲げているクラスもあります。それぞれの思いや願い、言葉がきちんとキャッチボールできる学級や学年をめざしてこのリーダーたちが力を尽くしてくれるものと期待していますし、リーダー自身も行き詰まったり悩んだりしたときには、仲間や先生方とのコミュニケーションを積極的に図り、より良い方向や解決策を見出し前に進んでいってほしいと思っています。

コロナ対策としてソーシャル・ディスタンスが求められている今、人と人との間は一定の距離を取らなければなりません。それに伴ってお互いの心の距離までも遠くしてしまっは、せっかく縁あって一緒になった仲間との絆を深めることはできませんし、集団としての成長も望めません。『距離は保ちつつも心は密に』できるコミュニケーション能力を、“新しい生活様式”の一つとして身につけていくことが必要とされているのかもしれない。

先週から部活動が始まり、校庭や体育館にはボールを追いかける姿が見られたり、音楽室からは楽器の音が響いてきたりと、南西中のあるべき姿がまた一つ戻ってきました。“個人練習を中心とした30分限定！”という本来の部活動からはまだ程遠い活動内容ではありますが、皆さんが再開を最も待ち望んでいたものの一つであることは、その表情からもうかがい知ることができます。



その筆頭に挙げられるのは、やはり1年生でしょうか……。私が昨年度まで勤務していた小学校でも「中学校での一番の楽しみは何？」と6年生に尋ねると、決まって「部活動」という答えが返ってきていましたので、南西中の1年生にとっても入学前から一番楽しみにしていたことがやっと現実のものとなり、入部登録に向けて精力的に見学したり体験したりする様子が見られました。1年生の一人は「いろいろ回って見たけど、もう心の中では決めています！」とニッコリしながら、胸の内を私に教えてくれました。

そんな1年生と同様に、いや、それ以上に、一日も早い部活動の再開を願っていたのは3年生だったと思います。ただし、市総体や吹奏楽コンクールなど3年生にとって最後の舞台となる大会が中止になってしまったことはすでに臨時休業中に知らされていたので、少し複雑な思いで部活動再開の日を迎えたかもしれません。

そんな折、たまたまYahoo ニュースでこんな俳句を見つけました。

梅雨曇り 吹っ切れぬ心 バット振る

これは松山市の中学生が作ったものです。松山市でも中学総体など様々な大会が中止になってしまったそうです。どんよりとした梅雨空と目指していた目標を失って晴れぬ心とを重ねて、やり場のない気持ちを無心にバットを振ることで晴らそうとする自分の姿を詠んだものだと想像しますが、今、全国の中学3年生が彼と同じような思いで何を目標に部活動に取り組んだらいいのか迷っている状態ではないかと思えます。もちろん、南西中の3年生も……。

しかし、久しぶりに味わう部活動の雰囲気や心を底から楽しんでいるような3年生を見て時間の経過とともに少しずつ気持ちの整理ができ、自分たちに残された部活動時間を有意義に過ごすことへのシフトが出来てきたのではないかと感じています。それは始業式での向山さんの「部活動では、夏の吹奏楽コンクールがなくなってしまう残念ですが、引退までの活動一回一回を大切にしていきたいです」という力強い決意にも表れていました。目指していた目標はなくなってしまうとしても、活動一回一回を大切にしている3年生の姿は、部活動にあ



こがれをもってこれから頑張ろうとしている1年生にどう映るでしょうか。活動一回一回を大切にしている3年生の姿は、思いのほか早い段階から部活動のバトンを受け継ぐことになり不安でいっぱい2年生に何を伝えることになるのでしょうか。3年生にはそこに新たな目標を見つけ、残された時間は少ないですが、後輩たちに残すべきもの・伝えるべきものをきちんと“つないで”ほしいと思っています。南西中の伝統と文化の継承のために頑張ってくれる3年生へのエールを込めて……。

